

学校部活動の地域移行における パターンと事例紹介

JFA部活動推進委員会
2023年3月31日時点版

JFA



はじめに

スポーツ庁が推進する学校部活動の地域移行に関し、地域移行のパターンはどのようなものが存在するのか・どのようにアプローチしたらよいのかなどの疑問への参考になればと思い、地域移行の想定パターンや具体的な事例の一部をご紹介します。

その中で、今回は地域移行の想定パターンを以下の3つに分類しました。（詳細は次ページ参照）

<地域移行の想定パターン>

◆活動の受け皿・形態：部活動を担っていた学校に代わる、多様な活動の母体・形態（以下①～③）

- ① **既存クラブ・団体(総合型地域スポーツクラブ等)**が受け皿となる形
- ② **新しい場を自治体や保護者会などが新設し**、受け皿となる形
- ③ **既存クラブ・団体や、新設された新しい場がそれぞれの部活動の**受け皿となる形

上記のパターン分けは、実際の事例において主に見られるケースを分類したもので、こういったパターン分けをすることで、それぞれの特徴や課題などを見比べながら、実際の現場における状況や情報と照らし合わせやすくなることが想定されます。

本資料が、地域移行の様々なパターンとその特徴や課題、それぞれの立場でどのように地域移行を捉えればよいかなど、状況認識や整理・アクションへの一助となればと思います。

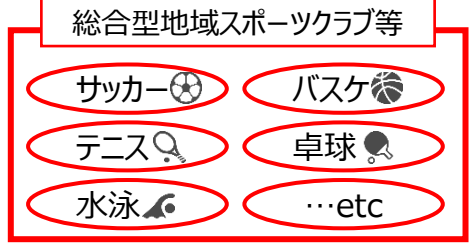
地域移行の想定パターン

◆活動の受け皿・形態

部活動を担っていた学校に代わる、**多様な活動の母体・形態**

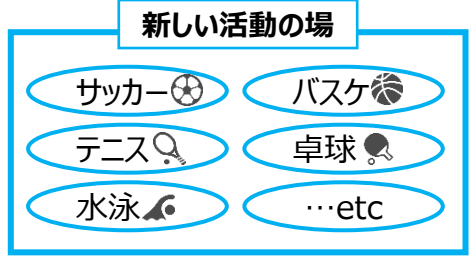
① 既存クラブ・団体(総合型地域スポーツクラブ等)が受け皿となる形

→地域に既に存在する総合型地域スポーツクラブなどの団体へ移行するパターン



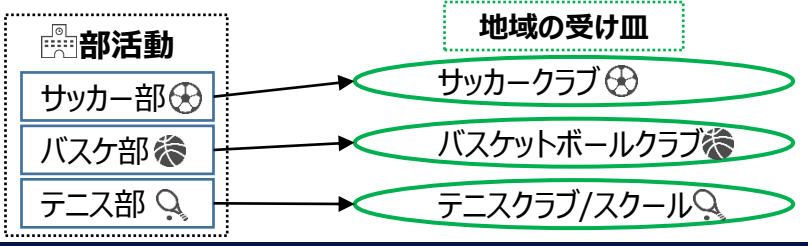
② 新しい場を自治体や保護者会などが新設し、受け皿となる形

→当該の学校部活動が地域移行できる新しい活動の場を新設し、移行するパターン



③ 既存クラブ・団体や、新設された新しい場がそれぞれの部活動の受け皿となる形

→部活動における各競技種目ごとに、個々の受け皿へ移行するパターン

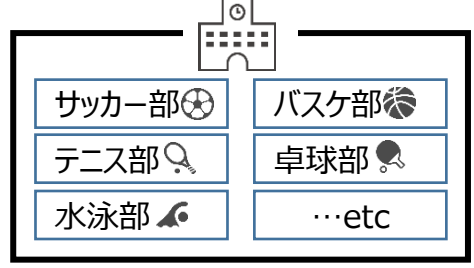


◆受け皿の対象となる学校部活動

受け皿の対象となる学校部活動が、**単体**なのか**複数**なのか

単体の学校部活動

例)A市にあるA中学校

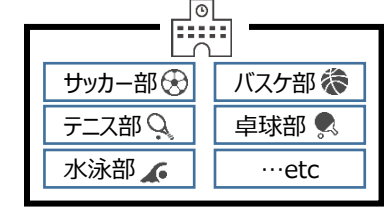


<想定される特徴>
 ◎部活動としては成り立っているが、地域移行を見据えて現状の部活動の形を維持しようとする場合 など
 ◎部活動のメンバー(部員)は変わらずに活動できる

→ 学校単位での地域移行へ

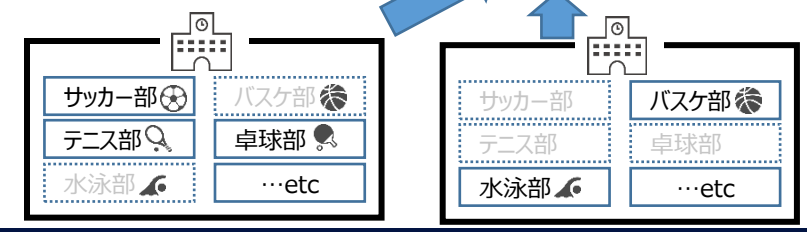
複数の学校部活動

例)A市にあるA校・B校・C校



<特徴>
 ◎各学校部活動の人数が少ない場合や、成り立っていない場合 など
 ◎人数不足等で部活動では成り立たなかった活動ができるようになる

→ 地域内の各学校部活動が
 合同で地域移行へ



地域移行で想定される主な課題

実施主体 受け皿や移行体制を構築・調整するコーディネーターや、活動に対する細かな運営事務の担い手は誰が行うのか

責任・管理 地域移行先の活動時における責任や安全管理は誰が・どう担うのか

指導者 地域移行先の指導者はどのように確保するのか

活動場所 活動場所をどのように確保するのか、どのように調整するのか

移動 活動場所や拠点によっては発生する参加者の移動負担に対して、どのように対応するか

費用 参加者に対してどの程度受益者負担をかけるか、指導者の謝金などの支出に対する財源をどのように確保するか

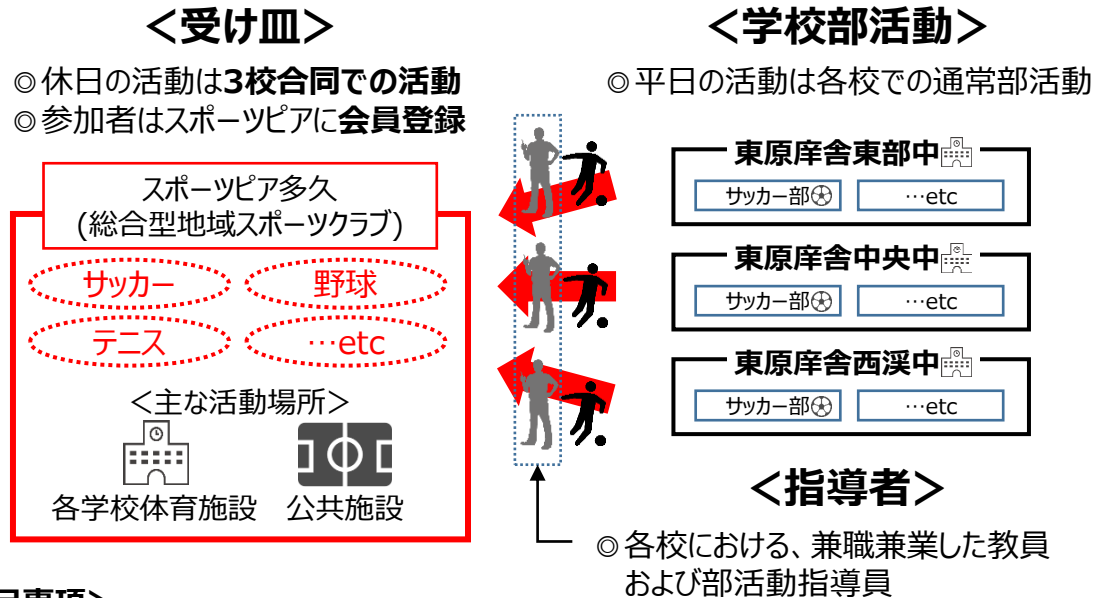
大会出場 学校部活動として出場するか、移行先で出場するか

佐賀県多久市(スポーツ庁実践研究対象)

◆パターンの分類

① **多競技を抱える既存クラブ・団体(総合型地域スポーツクラブ等)**が受け皿となる形

◆本事例の概要図



<補足事項>

- ◎ 多久市の教育委員会が地域移行の推進役を担っている。
- ◎ スポーツピアでの活動に対する活動場所や学校・指導者との調整作業等の運営事務の担い手も現在は教育委員会が担っている。
- ◎ 2023年度から会費(6,000円/年)を徴収予定としている。

<体制発足の背景>

- ◎ 教育委員会主導で少子化などの影響を懸念し、方策検討開始。
- ◎ 陸上やバドミントン(学校に左記2種目の部活はない)は地域部活動としてスポーツピアで先進的に体制を確立。
- ◎ 上記2種目を参考に、市内3校部活動のスポーツピアへの移行を目指す。

◆想定課題に対する状況

実施主体	現在は教育委員会が地域移行の推進役と運営事務の主導だが、 今後は運営事務局を徐々にスポーツピアに移管していく予定。	
責任・管理	兼職兼業の教員が指導をしていることや、活動としては『合同部活動』という位置づけのため、学校側の責任・管理下で活動。	
Check!	指導者	現在は兼職兼業の教員や部活動指導員が確保はできているが、 今後平日の活動も移行していく際は、更なる指導員の確保が必要。
活動場所	主に各学校体育施設を使用しており、状況により公共施設のグラウンドなどを活用する場合がある。	
Check!	移動	自治体が既に各学校に配置整備していた スクールバスを活用し 、 休日の活動に対しても、生徒たちの 移動負担が軽減 されてる。
Check!	費用	現在は自治体予算や国からの補助金等も活用しているが、 永続的ではない 。また指導者への謝金が安価なため謝金増額や、それに伴う会費以外の収入源など、 持続して運営していくための検討が必要 。(現在の指導者への謝金：200円/日)
Check!	大会出場	各学校単位の部活動として出場 、または3校内で人数の少ない学校同士で 合同チームを形成して出場 している。
Check!	その他	従来の学校部活動から体制が変化することや、それに伴うスポーツピアへの登録・会費などについて、保護者への説明機会を設けているものの、 全ての人に理解を得ることの難しさ があり、時間がかかっている。

長崎県長与町(スポーツ庁実践研究対象)

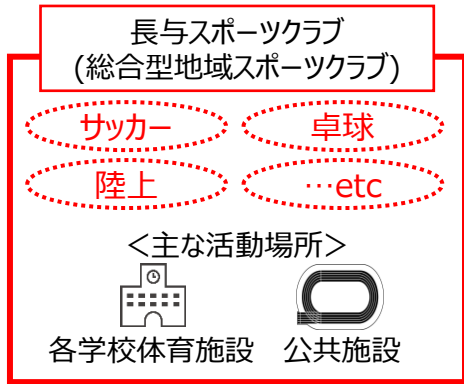
◆パターンの分類

① **多競技を抱える既存クラブ・団体(総合型地域スポーツクラブ等)**が受け皿となる形

◆本事例の概要図

<受け皿>

- ◎参加者希望者は**会員登録し、休日に活動**
- ◎会費は月額3,000円+保険代(スポーツ安全保険)



<学校部活動>

- ◎平日の活動は各校での通常部活動



<指導者>

- ◎各校部活動における外部指導員のうち、活動趣旨等の条件(※)に同意された方々
- (※)勝利至上主義ではなく、楽しく活動し続けることを趣旨としている
- (※)3年以内に指導者資格を取得することを条件にしている

<補足事項>

- ◎長与町教育委員会が地域移行の推進役を担い、長与スポーツクラブが運営事務を担っている。
- ◎2023年度より3校全ての部活動全12種目の休日の活動を地域移行。
- ◎学校部活動での外部指導員と、長与スポーツクラブでの指導者は、同一人物でも契約は主体団体ごとの契約で活動に従事いただいている。

<体制発足の背景>

- ◎長与スポーツクラブは長与町民により平成21年に設立され、多種目・多世代・他志向のスポーツ教室を運営しており、スポーツ機会の普及環境が整っていた。
- ◎教育委員会主導で、地域移行に関する検討委員会を発足し、方策検討を開始。
- ◎先行して卓球部の地域移行に取り組み、先行事例としての効果検証をしつつ、徐々に多種目にも拡大させ、段階的な移行から一斉に移行することを計画。

◆想定課題に対する状況

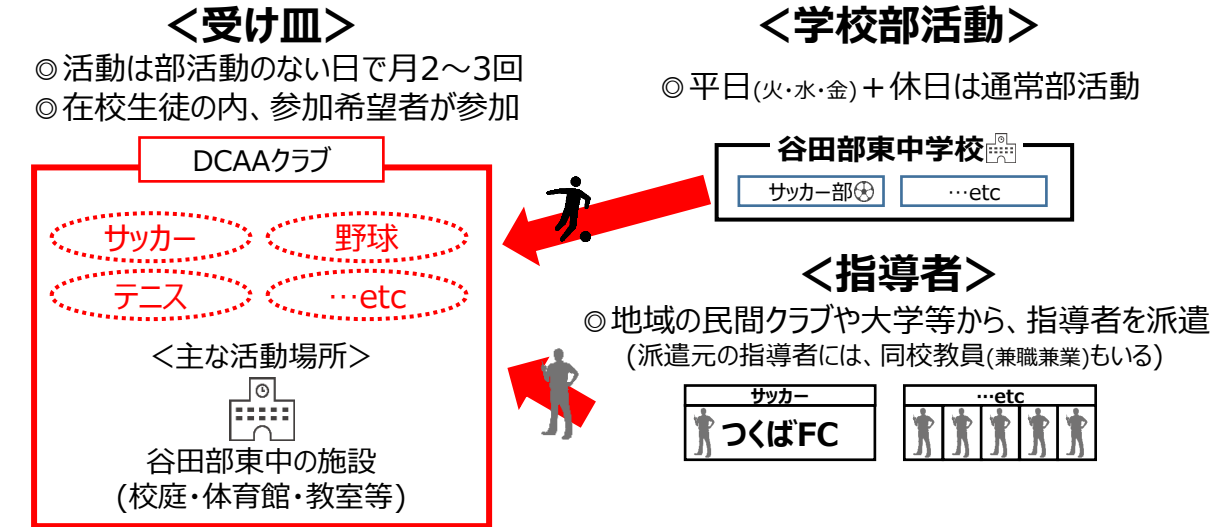
実施主体	地域移行の推進にあたり、コーディネーターの役割が非常に重要。運営事務についても基盤強化が重要で、特に経理面では税理士の導入を予定している。
責任・管理	もともと学校部活動でも、休日の保護者の見回り当番があったが、長与スポーツクラブが主体となり、教育委員会と連携を図る体制へ。
Check!	学校部活動における外部指導員の方々が引き受けてくれていることに加え、 大学生ボランティアスタッフもアシスタント してくれている。(長崎大学が束ねる長崎市および近郊の大学生が集うボランティアセンターが派遣)
指導者	また、 指導者との面談制度を取り入れるなど、フィードバックやコミュニケーションの機会を設けている。
Check!	3校が町内でコンパクトにまとまった位置関係にあることから、3校で活動場所を順番に回しても、移動負担は比較的少ない。
活動場所	試合や大会に行く際には マイクロバスおよび運転手を1台保有しているため、譲り合いながら有効な移動手段として活用している。
移動	
費用	令和5年度文科省予算で提示された「地域スポーツ活動」に関する委託金を期待している。それが叶わなければToToの助成や寄付、企業版ふるさと納税などの打ち手も検討している。会費の値上げは現状考えていない。
Check!	大会のレギュレーションに合わせ、合同での出場、各学校単位の部活動として出場など、 子供たちが出場できるよう柔軟に対応する。
大会出場	

茨城県つくば市(スポーツ庁実践研究対象)

◆パターンの分類

②新しい場を自治体や保護者会などが新設し、受け皿となる形

◆本事例の概要図



<補足事項>

- ◎DCAAクラブの活動に対する指導者の調整作業等の運営事務局はつくばFCが担っている。
- ◎在校生のうち、希望者が活動に参加。会費は1,250円/月。

<体制発足の背景>

- ◎少子化による部活動の維持が困難になっていく中、学校と地域が連携して協働・融合し、地域のスポーツ環境を整備できるよう、卒業生の保護者などの地域住民でDCAA(※)を設立。
- ◎先生方の部活動指導による負担を軽減し、質の高い教科教育や生徒指導を実現することを目指し、外部の専門的な派遣指導者による指導を行う『DCAAクラブ』を設置。

※『DCAA』=『洞峰地区文化スポーツ推進協会』

◆想定課題に対する状況

実施主体	DCAAが矢田部東中の部活動に対する全体的なコーディネートを行い、実際の活動に際する事務局はつくばFCが担っている。
責任・管理	今後活動日を増やして拡大させていきたいが、休日にも活動をする場合は教員不在のため、活動に対する安全管理が求められる。
指導者	月2～3回のDCAAクラブ活動時には、派遣指導者が指導を行うため、教員は学校業務等に専念することができ、 教員の部活動への負担軽減 になっている。 今後活動日を増やして拡大させていきたいが、現在の指導者人員で活動日を拡大させても指導者に負担が増えるため、更なる指導人材の確保が必要となる。
活動場所	日常の部活動と変わらず、通学している学校施設を利用した活動ができるため、 移動や施設確保の負担がない 。
移動	
費用	今後活動日を増やして拡大させていきたいが、指導者に対する謝金に必要な予算も増えるため、会費の値上げなども検討中。
大会出場	現在DCAAクラブの活動はチーム活動ではないため、各競技とも谷田部東中学校の部活動として出場している。

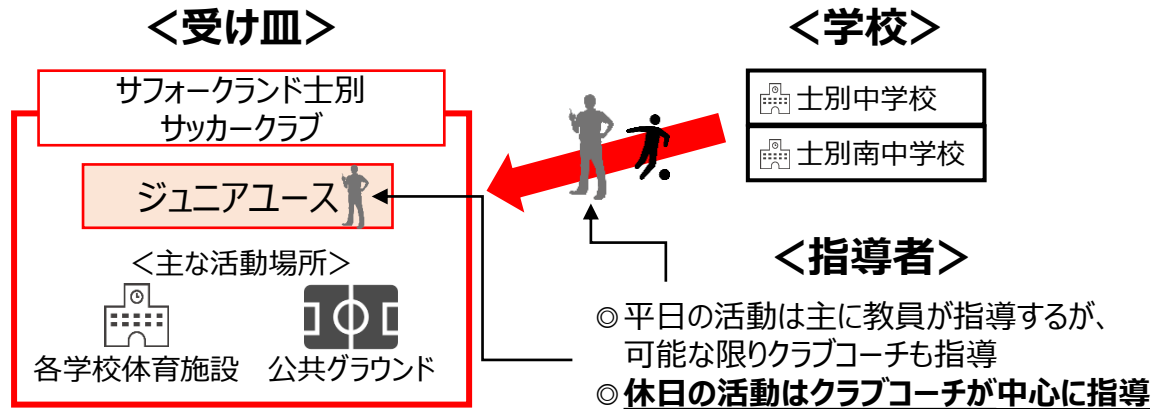
北海道士別市

◆パターンの分類

③既存クラブ・団体や、新設された新しい場がそれぞれの部活動の受け皿となる形

◆本事例の概要図

- ◎2校におけるサッカー部をクラブチーム化し、平日・休日ともに活動
- ◎学校長に部活動として了承を得ながら、地域クラブとしての活動が来ている



<補足事項>

- ◎サフォークランド士別サッカークラブは、もともとジュニアからシニアチームで構成されているクラブ。ジュニアチーム(少年団)は市内で同クラブのみ。
- ◎市内の中学校でサッカー部があるのは上図のみで、同クラブジュニアチーム出身の選手が多数。
- ◎チーム登録上の区分はクラブチームで、2018年よりクラブユース連盟に加盟。

<体制発足の背景>

- ◎部員数によっては単年での合同チーム編成を行ったり、片方のサッカー部に11名以上いる場合は合同チーム規程により組めない状況があった。
- ◎部員数により活動形態が左右されることなく、子供たちが安心してサッカーに取り組めるよう、2017年からクラブ化の検討を開始。クラブ役員、各学校のサッカー部顧問や学校長と協議を重ね、市の教育委員会を通して北海道教育委員会への確認を経て、クラブ化を実現。
- ◎ジュニアチームと一緒に活動した仲間が再び集まれる場として2018年に発足。

◆想定課題に対する状況

実施主体	同クラブが主体となり、部活動をクラブ化したジュニアユースチームとして運営を行っている。
責任・管理	学校部活動として認められているため、責任や保険は学校側。但し、休日などの教員不在時の安全管理はクラブ側が主体。
Check!	平日休日共に部活動顧問とクラブコーチが協力して指導体制を構築、完全クラブ活動日を設定することで部活動顧問の負担を軽減。クラブチーム化したことで、ジュニアチームからの一貫指導体制のベースを築いている。また指導の質を高め、指導の一助となるように顧問、クラブコーチによる練習会を行いトレーニングメニューや考え方の共有を図っている。
指導者	平日の活動は主に教員が指導するが、可能な限りクラブコーチも指導 ◎休日の活動はクラブコーチが中心に指導
活動場所	主に平日はどちらかの学校のグラウンドを使用しており、休日は公共のグラウンドなどを活用している。
移動	いずれの活動場所も市内でコンパクトにまとまっているため、移動負担は少ない。ただし、冬は積雪の影響でバス移動や送迎が必要。
Check!	選手は部費以外の費用負担はない。各校の部活動予算と、クラブからの活動費補助、保護者会のサポートを予算として運営。なお、休日におけるクラブコーチへの報酬は部活動の外部コーチという扱いであるため、自治体が一部を負担。
Check!	大会出場
大会出場	2022年度はクラブユース選手権にクラブチームとして出場。全中側の出場要件の変化に伴い、今後の出場大会を検討中。